

こんには、米森美咲です。
協力隊として活動する中で、
主と話す機会がありました。

ります。その中で、自分の考え方や「気持ちと向き合う時間が増えたように思います。

県内ニュースで、大学生が就職を機
に「秋田県内にとどま
うと、「できれば秋田県内にとどま
ってほしい」という親の思いの間で
描れている姿がありました。また、

に都会を志望した際、理由を問われ
続けたことで、かえって秋田への気
持ちが離れてしまったというコメント
を目にしました。進路を考える中
で、言葉にしにくい気持ちを抱えて
いる若い世代がいることを、身近に
感じた出来事でした。

私自身、「外に出たい」と思つて
いたわけではありませんが、大学進
学と就職を機に秋田県を離れました
県外に出た友人たちが「気持ちが楽
になつた」と話すのを聞くたびに、
その感覚は私にもよく分かると思い
ました。家庭は比較的自由でしたが
学校や社会の中で、周囲に合わせる
ことに疲れを感じることもありまし
た。

田舎には言葉にしにくいけれど、人が安心して暮らし、成長していくための人としての土台があります。「可愛い子には旅をさせよ」という言葉の通り、外に出る経験も、戻れる場所があることも、どちらも大切なのだと感じています。田舎での暮らしを選ぶ人は、「ここにある価値に惹かれてやって来ます。

協力隊として、地域の内と外の声に触ながら、この町が当たり前のように大切にしてきたものを、次の世代や新しく関わる人たちへそつと伝えていけるよう、今年も情報発信を頑張ります。

最低その子の持ち味があればじゅうぶんです。
でも、変化が激しく価値の多様化が進むこれから
の世の中で、一つの味だけで勝負するにはずいぶん
心許ないことではないでしょうか。日々変化する社
会で、子どもたちが自分を見失うことなく活躍し続
けるには、豊かで多彩な味をもち、それらを状況に
応じてうまく使いこなす能力が求められるような気
がします。

さて、子どもたちが様々な味を身に付けるには、何か特別な仕込み方があるのでしょうか。これもまた私のとらえ方で恐縮ですが、要は、子どもを可能な限り、多方面からそれぞれの味付けをしてもらうことなのではないかと思っています。

つまり、学校教育で培われる味、家庭の力で育まれる味、地域社会で磨かれる味など…。言うまでもないことですが、学校教育の場では、学校教育としての味が醸し出されます。でもそれだけでは豊かな味というわけにはいきません。それを補うためには、家庭や地域社会などがそれぞれ醸し出す違った味との出会いが必要です。つまり、子どもたちが、多種多様な経験なり多くの人とのかかわりなりを通して、成長とともに味の幅を広げていくことが大切なことだと考えます

これからも、味わい豊かな八峰の子どもを育てるために、町や地域ならではの美味を探りながら、子どもたちへの豊かな味付けのお手伝いをしていきたいと思っております。本年も、引き続きよろしくお願いいたします。

